

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. その人らしい穏やかなシルバーライフを常にサポートします 1. 心をこめた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます 1. さまざまな機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にします	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、住み慣れた地域での暮らしや、関係性の継続、地域生活の継続を支える為、理念を柱に柔軟な支援に努めたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	立場や経験に関係なく、全職員で理念を意識し、何を大切に利用者に関わっていくかを話し合っている。 管理者・職員共に、理念を具体化していくことを目指している	○	職員の採用時には事業所としての理念を伝え理解をして貰っている。 また、毎朝の朝礼時には職員で理念を唱和し、理念の共有を図っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には面会時など折にふれ伝えている。地域の方々には地域の集まりや、行事などへの参加の際に伝え、理解して貰えるように努めている。	○	ホーム新聞の掲示や配布を行い、認知症の理解を深める活動に努めていく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出の際に出会った近隣の方々には必ずこちらから挨拶を行なっている。 ホーム行事などもお知らせを回覧して貰い、交流を図っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	企業との事で、自治会への参加は断られたが、賛助金を納めることで地域の行事に参加できるようになった。	○	近隣の幼稚園・グループホームへ挨拶に伺い、交流を深めていく。 また、入居者様も無理なく活動・行事に参加出来るように努めていく。

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「地域の方で介護等に悩んでいる方がいれば気軽にご相談下さい」と運営推進会議を通し、自治会長・民生委員の方々へ伝えている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を伝え、自分たちのサービスに足りない部分を明確にしていくことを意識付けている。 また、外部評価の結果を全体会議を通じて話し、サービス向上に努めている。	○ 個々の項目をピックアップし、月々に分け自己評価を行い、向上に努めていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や項目についての経過報告を行い、それに対し、意見・質問を頂き一方的な話し合いにならないようにしている。	○ 意見・質問を参加者の方々に頂いているが、より多くの方の参加を促し、サービスの向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政上必要な手続きの際だけではなく、介護を行っていく上での問題・質問等を積極的に話し合うようにしている。	○ 行政の担当者に事業所の考え方や運営・現場の実情などを積極的に伝える機会を作っていき、情報の共有に努め、サービスの向上を図れるようにしていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を使用に至るケースがないが、必要な際は管理者が一人で対応するため、他の職員は制度の概要を知っている程度。 今後研修や会議を通して理解を深めていくように努める。	○ 管理者と職員は制度に対しての理解を深め、必要と考えられるご利用者がそれらを活用できるように、関係機関への橋渡しとなるように努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議を通して、「高齢者虐待防止法」の関連資料を職員に渡し、周知を行っている。	○ 管理者・職員は高齢者虐待防止関連法の理解を深め、職員による虐待の徹底防止・早期発見に努める。

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際には十分に時間を取り、不安な事・疑問に思われる事をしっかりと話し合っている。 特に利用料金や起こりえる事故・リスク、退去などの際における事業所の対応等については時間を取り、理解をして頂けるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉・態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営に努めている。 その時々不安・意見等は各ユニットで話し合い、職員間での共有をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各フロアの廊下に外出時の写真を掲示し、訪問時に報告している。 また、毎月末に出納帳の繰越・レシート原本と一緒にホーム新聞をご自宅へ郵送し、当月の報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が何でも言える・聞ける様に雰囲気作りを行っている。また、ホーム内に苦情箱を設置している。 年2回匿名でのアンケートを実施し、その結果を会議等で周知し反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の際に意見を聞く機会を設けている。 また、休憩時間等の空き時間に個々に管理者側から職員に意見を聞くよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が通常勤務から外れているため、緊急時や職員の状態に合わせて、柔軟な対応が取れるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員の移動を抑え、馴染みの顔でケア出来るように努めている。また、移動や離職がやむを得ない場合にもその時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。	○ サービスの質の確保には顔なじみの関係作りが重要だと考えているため、新しく入職する職員もきちんとご家族・利用者へと紹介し、いち早く信頼関係を結べるように努めています。

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている	○	・介護スタッフの離職防止(介護レベルの安定・向上)を図るため、社内研修・勉強会の充実に努めていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	他事業所との交流や事例検討会等への積極的な参加を行い、人材育成・サービスの向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご家族や御本人の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行っている。 その際に早急な対応が必要な場合には、地域包括支援センターや他事業所にも働きかけ、柔軟な対応が取れるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族が事業所を見学して貰う事から始め、職員が自宅へ出向いたりしながら、安心して利用できるよう努めている。 やむを得ず、すぐに利用になった際にはご家族・関係者の方に多く面会にきて頂き、安心して貰えるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ・不安・喜びを知る事に努め、生活の中で共に分かちあったり、支えあえる関係作りに努めている。 支援する側・される側と言う意識を持たず、お互いが協同しながら生活が行えるように工夫・声掛けをしている。	○	利用されている方々は「人生の先輩」と言う尊敬の念を常に抱き、家族のような関係作りに努めていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子・職員の思いを細かく伝える事で徐々に思いが重なり、利用者を支えていく為の協力関係を気付けるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者・ご家族の考えをしっかりと見極め・理解していき、外出・外泊・行事への参加を事業所から呼びかけていき、双方の思いが結びつくように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの情報・話しがあった場所への外出等の機会を可能な限り行っている。 また、顔なじみの方が面会に来れる様に、ご家族様への働きかけに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、みんなで楽しく過ごす時間・気の合う方同士で過ごす時間の確保に努め、利用者同士の職員が入る事でよい関係が利用者同士で築けるように努めている。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域密着型サービスとして、サービス利用期間のみに関わらず、終了後も利用中に培った関係性を基盤とし、継続的な関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での声を掛け把握に努めている。言葉・雰囲気・表情などからその真意を推し量ったり、性格・生活暦等を考慮し思いや意向の把握に努めている。困難な場合には家族や関係者へとそれとなく聞いている。	○	利用者がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、「聞いても現実には困難」とみなしたり、「認知症だから聞くのは無理」と決め付けず、日々の些細な事・ちょっとした発言から本人の意向・意思を汲んで生活できるように努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族・関係者の方々から聞き取るようにしている。また、会話の中・ふとした時に出て来る言葉に注意し、それまでの経緯・生活の名残を把握していくようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者1人1人の生活リズムの把握から、言動・表情から、利用者を感じ取り全体像を導いている。生活・心理面の視点や、出来ない事ではなく、出来る事に注目し、その人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映できるようにしている。アセスメント・モニタリング・カンファレンスを全職員で行い、意見交換し介護計画の作成に取り組んでいる。	○	介護する側にとっての課題ではなく、本人がより良く暮らすための課題やケアのあり方について、本人・関係者・家族の気付きや意見・アイデアを出し合い、話し合った結果を元に介護計画を作っていくように努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望・意見を聞き入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には終了する前であっても検討・見直しを行っている。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄状況等、身体的状況及び、日々の暮らしの様子や発言・状況を記録している。 勤務開始前には記録の確認を職員が必ず行う。 記録確認で職員間の情報共有を行い、介護計画の見直し、評価を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	予定日以外の通所や緊急の宿泊・訪問・延長サービス等、本人・家族の状況や希望を軸に臨機応変に対応している。 本人・家族の状況に応じ、通院・送迎等必要な支援は柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、近隣の住民の方・民生委員と意見交換をする機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービス・訪問マッサージ等の利用を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり関係が強化された。周辺情報や、支援に関する情報交換など、協力関係を築けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医を利用している。 基本は家族同行の受診となっているが、意向を踏まえた上で往診医に変更をしたり、やむを得ない場合には職員が代行している。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々の主治医に相談し、診療情報や治療方法・認知症についての指示やアドバイスをもらっている。	○	近隣に専門医が開業されたため、ご家族の理解・協力の元受診できるように対応している。より強い協力関係が築けるように努めていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日々の健康管理・医療面での相談・助言・対応を行って貰っている。 気軽に相談できる関係が出来ており、看護師を提携医療機関との連携も密に取れる体制になっている。	○	普段から気軽に相談できる事は、その後の即応対応や、職員の判断・対処の能力を育てていく事にもつながるため、このままよい関係を築きあげていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による身体機能の低下・意欲の低下を防ぐため、担当医・ご家族と話す機会をもち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。 入院中はなるべく多く見舞いなどを職員が行い、治療状況・経過を担当医・ご家族に聞き、情報交換を行い、速やかな退院支援に結び付けている。	○	入院は、なれない場所・治療処置等で心身に大きなダメージをもたらすため、本人のストレスの軽減のため、家族・医療機関としっかりと話しあい、情報交換を行っていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応しえる最大のケアについて説明を行っている。 見取り等に対する対応方針を定め、家族・医師・看護師を交え話し合いを行っている。また、状態の変化があれば家族の意向・本人の思いに注意し、支援を行っている。	○	重度化した場合・終末期のあり方・見取りに対しての事業所の対応について、出来るだけ早い段階(契約時等)から話し合い、それを繰り返していき、お互いに対応方針の共有を図っていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意向を踏まえ、医療機関・医師・看護師・職員が連携を取り、安心して納得のいく最後が迎えられるように、随時意思確認しながら取り組んでいる。	○	重度・終末期の利用者に対して、安心・安全を確保し、より良く暮らすために対応可能なこと、困難な事・不安な事を職員全体で率直に話し合い、家族・医療機関と連携をとり、チームで支援していく事を関係者全員で共有し準備を行っていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られる場合、アセスメント・ケアプラン等の情報提供を行う際に、しっかりと情報交換を行っている。 新しい生活・暮らしでもこれまでの暮らしの継続性が損なわれない様に情報提供を行い、きめ細かい連携に努めている。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	1人1人の誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底する事は基本であるが、実際守り通しいく事が難しい事項でもあるため、全職員が尊厳・権利・プライバシーについてより具体的に話していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	年齢・認知症の進行の具合・性格の起因で判断力や希望を表に出せない・出しにくいと言う事があるため、表情・言動などにしっかりと注意し、本当の希望・意思を汲み取っていくように努めていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	利用者個々の習慣・生活リズムを重視し、日々の暮らしがその人らしいものとなるように、職員が利用者に合わせていく姿勢を常に意識していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	おしゃれは本人の気持ち・落ち着き・明るさ・満足感を与え、全体的な状態の安定を図れるため、常に個々の希望・個性を大事に支援できるように努める。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレへとさり気なく誘導する事で失敗等を減らすようにしている。 排泄チェック表などの記録を参照し、尿意・便意の無い利用者にもオムツではなく、リハパン・パット等の使用をしている。	○	トイレでの排泄やオムツをしないですむ暮らしは自信の回復・食や睡眠等の身体機能向上につながっていく。 とても大切な事なので、初めからの決め付けず、オムツの使用回数を減らしたり、可能な限りトイレでの排泄を支援し、気持ちよく排泄できるよう支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日・希望する時間に入浴して貰っている。また、入浴を嫌がる利用者には強要はせず、ご本人のタイミングにあわせ入浴をして貰っている。	○	利用者の入浴は事業所が決めた日時にあわせるのではなく、個別支援の可能性や利用者への押し付けになっていないかを考え、個々の意向に沿い、くつろいだ入浴が出来るように支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えていけるように努めている。 また、個々の体調・表情・希望を考慮し、ゆっくりよ休息が取れるように努めている。	○	1日の流れの中で1人1人が必要な休息や睡眠が取れるように努めています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で1人1人の力を発揮して貰えるように、仕事を頼み、感謝の気持ちを必ず伝えるようにしている。 食事作りや草取り・他作業を利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作り、また、遠出の外出・外食の際には楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。	○	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、また、それまでの経験・知恵を最大限発揮できるように1人1人にあった役割や楽しみ・気晴らしが出来るよう支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、外出時・喫茶店等支払いが起る場合には、なるべくご自身に財布を渡し、支払いをしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気・ご本人の気分や希望に応じて外出の支援を行っている。また、日常的に近隣への散歩をする事で、いつでも外出が出来る状態を作り上げている。	○	急な外出の希望・帰宅要求・会話の中に出て来る外出の要望をしっかりと聞き入れ、小さな希望・要望も可能な限り支援・援助できる体制・心構えを常に考える。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「～をしたい・行って見たい」と言った利用者の思いが出されたときには、実現するために職員同士で考え・話し合い、支援できるように努めている。 また、ご家族の協力が必要になる際には、しっかりと相談・提案した上で実現に向かい支援している。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知り合いの方に電話をしやすい雰囲気作りや、会話の際他の利用者に聞こえないように、相談室を使ったりと工夫している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族も親の家を気軽に来られるように雰囲気作りに努めている。訪問時間・面会時間等を定めておらず、仕事帰り・外出のついでにでも立ち寄りいただけるよう気を配っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有確認を図っている。日々の申し送り、朝礼の際にもケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないかを注意している。	○	運営者・全職員が身体拘束の内容と、その弊害を認識し、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいく事が大事だと考えます。状態の安定・安全に向けたケアをしっかりと行っていき、事を徹底し、必要に応じた外部の専門職の意見も取り入れ支援に努めていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出したような様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒についていくようにしている。 また、自由に外へ出る際にも、安全面・所在の確認を職員は徹底して行うようにしている。	○	職員の見守りの方法を確立・徹底し、また、利用者1人1人のその日の気分や状態を理解していき、日中は玄関の鍵を掛けず、より自由な生活を支援できるように努めていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の作業を行いながら、さりげなく利用者の様子を把握するように努めている。夜間は数時間ごとに利用者の様子を確認すると共に、起きた際にはすぐに対応できるよう、フロア中央のソファで作業を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くのではなく、利用者の状態変化によっては注意を促していくなど、ケースに応じた対応を行っている。利用者の状況に照らし合わせて、嚴重に保管が必要なもの・保管管理が必要なもの・利用者が使用の際に注意が必要なもの等に分け管理を行っている。	○	事業所は暮らしの場であるため、洗剤・刃物・薬品等が利用者の身近に置かれていることが自然である。また、本人の力を活かした日常生活を営む上で必要な場合もあるため、無くしていくのではなく、保管場所・管理方法等に十分注意を払っていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人1人の状態から想定・予想される危険を職員同士で話し合い、未然に防ぐ為工夫している。日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一事故が発生した場合にも、速やかに事故報告書を作成し、事故の原因・今後の予防策を検討した上、ご家族へ説明・相談を行っている。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤・夜勤時の緊急対応についてマニュアルを整備し周知徹底を行っている。 消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。地域の協力体制については、自治体でお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。	○	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使用法等を定期的に学んでいく。 また、運営推進会議などを通し、地域の方々の協力体制を作っていくように話していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者個々のリスクを職員は把握しており、家族に対応策を説明している。 起こりえるリスクについては、個別で定期的に見直しを行っている。	○	様々な活動・外出によりリスクは高くなっていくが、家族へきめ細かく、具体的に説明を行う事で、協力・理解を得られ、抑圧感の無いのびのびとした生活が行えるよう努めていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、少しでも食欲や顔色・様子等の変化が見られたときには、バイタルチェック・変化時の記録を付けている。また、状況に応じ医療受診の対応・ご家族への相談・報告を行っている。	○	体調の変化・些細な表情の変化も見逃さないように早期発見に取り組んでいる。変化等気付いたことがあればすぐに、管理者・リーダーへと報告すると共に、職員間での共有を行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、処方箋のコピーを各利用者別に整理し、職員が内服の把握できるようにしている。 処方の変更・種類の増加があったり、本人の状態変化が見られた際にはより細かく記録をとり、看護師・医師との連携を図れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく服薬にての管理を行わないよう、お茶(センナ茶)や、水分の補給、運動によつての自然な排便を促せるように努めている。	○	利用者個別の生活を考え、食事・運動・睡眠・排泄がよりその人らしい生活リズムに近づくように努め、自然な状態での健康管理を行えるように努めていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き・うがいの声掛けを行い、個々の力によつての見守り・介助を行っている。 また、義歯・歯ブラシ・コップ等は定期的に職員が洗浄・消毒を行っている。	○	口腔ケアの重要性をすべての職員が理解し、それによる弊害を未然に防止できるように努めていく。

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。 また、食形態・水分形態を個々の状況に合わせて提供していくことで食べやすさ等の工夫を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりえる感染症について細かくマニュアルを作成し、全職員で学習し、予防・対応を行っている。 また、利用者・家族への同意を頂き、職員と共にインフルエンザ予防接種を受けている。	○	事業所内で起こりえる感染症について、細かくマニュアルを作成し、全職員で学習し、予防・対策に努める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の中の点検・掃除を定期的に行い、予防に努めている。また、調理器具は毎日消毒・熱殺菌を行っている。	○	調理器具・台所水周りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて実行している。 新鮮で安全な食材を使用するため、週3回買い物に出かけ、買いだめ等を削減している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前を明るい雰囲気にする為、プランターや花壇をおき、また、近隣の方、利用者のくつろぎの空間として、入り口前にベンチを設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は落ち着き・居心地よく過ごせるように工夫している。また、自宅の延長として自身の力でその人らしく生活できるような工夫と、利用者1人1人が感覚・価値観を大切にし、居心地の良い場所となるように努めている。	○	調理の音・料理の匂い・テレビの音・季節に合わせた料理等で五感や季節感を意識できるような空間作りに努めている。フロアの飾りつけ・家具の配置は利用者と共に考え、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めて貰えるような工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数であっても集団生活は気持ちが落ち着かず、特に認知症の人はその事自体を不安やストレスの原因になる事があるため、1人になれるちょっとしたスペースや、気の合うもの同士で同じテーブルで過ごせるように配置の工夫を行っている。	○	集団生活であっても個々のプライベートの確保が出来るスペースや、1人になりたい気持ちを職員が敏感に察知する事で、集団生活からのストレスの軽減を図っていくよう努めていく。

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれまでの生活用品などを持ち込んで貰い、自宅での生活の延長としてスムーズに暮らしていけるように、ご家族へと協力していただいている。	○	それぞれ個々の利用者の状態・好み・馴染みの物をそれまでの生活習慣に合わせて、家族と相談しながら用意している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個々の状態や反応を見ながら、起床時・外出時等に窓を開け換気を行っている。 温度の調整は職員に合わせるのではなく、利用者主体で調整を行っている。	○	夏場・冬場等の外気温にあわせられない時にでも、極端に室内温度を一定にするのではなく、利用者個々の体温・生活状況に合わせた温度・湿度調整を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の状態・身体機能に合わせ、活かした動線環境の確保をしている。 状態の変化・ADLの低下等があったり、予期されたときには会議等で話し合い、危険防止や自身の力を活かせるように工夫している。	○	調理台の高さ・座席の高さ等を利用者の目線で設定し、より自身の力を活かせる・安全に配慮された環境を提供できるように努めていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人の判断能力・分る力を見極め、不安や混乱・失敗を招くような物品については検討し、利用者の認識違いや判断ミスを最小にする環境面での工夫に努めている。	○	利用者にとっての不安材料・混乱要因をしっかりと把握し職員間での共有を図る事により、本人の不安・混乱を軽減・削除できるように努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外環境は利用者の力を活かしたり、趣味・楽しみの為に使用しており、畑・物干し場・植木の手入れを出来るように庭や玄関を活用している。	○	庭にプランターや花壇を設置したり、畑のスペースを確保し、日常的に楽しむ事が出来るように努めている。 また、玄関先にベンチを置くことで、利用者が涼んだり、日向ぼっこが出来るように環境を活用している。

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症だからといって暮らしを枠の中でするのではなく、より対外的に・よりのびのびとした生活を送って頂きたい。
また、職員・利用者と言った概念ではなく、本当の家族のようなお付き合いが出来るように、より親身に生活を送っていただけるように関わりを持っています。